

芸術・ソルフェージュ	1年次	2単位	選択履修
使用教科書 『MOUSA 1』（教育芸術社）	副教材等 なし		

1. 学習目標

楽譜を読むことを中心に、音楽の基礎的な能力を身につける。平易なリズムや旋律を聴き取って歌うことができるようにする。

2. 指導の重点

生涯学習の基本となる力を養うために、歌唱・器楽の演奏に必要な知識・技術の習得を目指す。音楽的視野を広げるため、多様な音楽を理解する心情を育てる。

3. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
楽譜の記譜法について理解し、聴き取ったり演奏したりできる。	音楽を構成する要素、それらに関わる用語や記号について、音楽における働きとともに理解している。	音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱・演奏・創作活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価規準と評価方法			
評価は、次の3観点から行う			
評価の観点	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
	音部記号ごとの音高が読める。 変化記号について理解している。 平易な視唱・視奏ができる。	音楽を構成する要素を知覚し、その関わりについて考えている。	学習に取り組む準備ができている。 技能向上を目指し、課題に取り組んでいる。
授業中の活動内容の観察、定期考査、ワークシート等提出内容の確認・分析などから評価します。			

5 学習計画

月	単元名	学習活動	時間	評価の観点	評価方法
4 5 6	音部記号と音価	ト音記号とヘ音記号の音高を理解する。また、鍵盤楽器を用い、音高と鍵盤を一致させる。音価について理解し、組み合わせによって生じるリズムや拍子について学ぶ	20	a b c	観察・聴取 学習プリント (記述の点検・確認) ワークシート(分析)
7 9	変化記号	臨時記号や調号によって生じる音高の変化について理解し、記譜上のルールについて学ぶ。音階の種類や特徴を理解し、変化記号を用いて表現する。	15	a c	
	前期期末考査			a b	
10 11	視唱と視奏法	音高・音価を理解し、5度以内の平易な旋律を視唱・視奏する。音程を知覚し、聴き取った旋律を復唱する活動を通して、正しい音程感を身につける。	18	a c	観察・聴取 学習プリント (記述の点検・確認) ワークシート(分析)
12 1 2	広音域の視唱と視奏 聴音	5度を越える音域や、記号によって変化した音高を含む旋律について視唱・視奏する。平易な旋律を聴き取って記譜する。	17	a b c	
	後期期末考査			a b	

計70時間（50分授業）

6 課題・提出物等

授業の進め方、課題・提出物など
学習プリントに沿って解説・演習をします。授業では前回の復習を必ず行うので、繰り返しによって定着を図ること。演習課題、ワークシートは丁寧に取り組み、必ず提出すること。

7 担当者からの一言

ドの位置から学びます。文字を読んで発音するように、音符を読んで音楽を再現できることを目指します。